

平成30年度大阪府立高津高等学校 第2回学校運営協議会会議録

日時 平成31年1月17日(木) 18時30分～19時45分

場所 校長室

出席者

(委員) 森田 英嗣 (大阪教育大学理事・副学長)

新崎 国広 (大阪教育大学教授)

竹村 伍郎 (NPO法人「まち・すまいづくり」理事長)

浅田 千鶴 (同窓会副会長)

中川 哲也 (元PTA会長)

東郷 俊也 (PTA会長)

(事務局) 山崎 晃昭 (校長)、藤原 隆志 (教頭)、山崎 義文 (事務長)、伊勢田佳典 (首席)、

山口 優 (首席)、菅 康之 (企画広報部長)、吉澤 久良 (記録係)

I. 挨拶

① 校長より

- ・本年度は台風・地震による被害が甚大で、記念館の屋根などまだ回復していないものもある。また、ブロック塀については、次年度中にすべてのブロック塀を撤去して、ネットフェンス等に変更する予定である。
- ・11月24日に創立百周年記念式典および祝賀会が盛大に行われた。ご支援ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

II. 学校からの説明・報告

① 学校運営協議会について

次年度の学校運営方針(「学校経営計画」の“1めざす学校像”と2中期的目標)について、承認していただく必要がある。次回の第3回学校運営協議会で承認をお願いしたい。

② 平成30年度「学校経営計画」の進捗状況等について

○「学校経営計画」進捗状況

*中期的目標1-1

- ・新学習指導要領や大学入試改革などの課題に向け、担当部署を中心に具体的な取組みを進めている。

*中期的目標1-2

- ・英語海外研修は夏休みにニュージーランドとオーストラリアの2カ国に行った。1月当初からオーストラリアのキャンベラ・ガールズ・グラマー・スクールの生徒が3名来校し、1年と2年のクラスに入って一緒に授業を受けている。(1月末までの予定)
- ・12月に台湾の河川調査を国立台南女子高級中学と国立台南第一中学(日本の高等学校に相当)の生徒と合同で行った。

*中期的目標1-3

- ・体験型進路学習については、2年生(72期生)が11月に大学の研究室訪問を行った。49の研究室を訪問し、その結果をポスターにまとめ、11月15日(木)に体育館でポスターセッションを行った。大学の先生の話では、研究室訪問の際の高津生の積極的な姿勢に大学生がかなりの刺激を受けたとのこと。

*中期的目標2-2

- ・「遅刻者を減らす」という目標に各学年で取り組んでいて、12月現在で延べ遅刻者数1554人。年2,000人以下をめざしている。
- ・記念祭は、昨年に引き続き今年も6月に体育祭、9月に文化祭を実施した。生徒はたいへんよく頑張っている。

* 中期的目標 2—3

- ・「生徒自治会の更なる活性化」をめざしている。自治会活動への肯定的評価はアンケート（生徒向け学校教育自己診断）で70%を目標にしていたが、結果は目標値に達しなかった。

* 中期的目標 2—4

- ・スクールカウンセラーなどの外部人材の活用は、今後ますます必要になってくる。本校では、スクールカウンセラーは府の予算に加え、さらに私費でも確保しており、積極的な活用に努めている。

* 中期的目標 3—1

- ・教科指導力の向上のために、研究授業・授業公開を多く実施している。

* 中期的目標 3—3

- ・府立学校では40代から50代前半の教員が非常に少ないので、これからの府立学校を支えるミドルリーダーの育成が急務である。本校でもミドルリーダーの育成に努めている。

* 中期的目標 3—7

- ・「働き方改革」を念頭に置き、月1回以上、安全衛生委員会を開催している。仕事は量的にはなかなか減らすことが難しいが、職員の精神的負担感を軽減できるようにしていきたい。
- ・9月に「大阪府運動部活動の在り方に関する方針」が策定され、各学校においては、本方針に則り、「学校の方針」を平成31年2月末までに策定する。適用（実施）は平成31年4月から。また、平成31年度以降の学校閉庁日の実施について、夏季休業中に連続3日間以上設定し、さらに、冬季休業中に連続3日間以上設定するよう努めることとなった。

Ⅲ. 質疑応答

* 災害時の備蓄について

- ・災害時の備蓄はどうなっているのか。

⇒私費（学年費）で、生徒1人あたり1,000～1,500円程度を負担していただき、アルファ化米1食・ビスケット2食・水500ミリリットルのペットボトル4本を生徒数だけそろえる。教職員用の食料は府が負担する。また、簡易トイレやポリ容器も支給される。

- ・私立では、生徒達に私費で災害時用のパックを購入させているが、それには数日分の食料や、防寒具なども含まれている。卒業時まで学校が保管して卒業時に返却すればいいのだから、公立でもそのようにできないか。

* 自治会活動に関する生徒の意識について

- ・生徒は自治会員という認識を持っているか。また、アンケートの自治会活動への評価は、自治会員としての自分の問題についてなのか、自治会執行部に対する評価なのか。

⇒生徒は自治会員という意識は持っているが、アンケートの評価は執行部への評価ではないかと思われる。自分が自治会員であるという意識を生徒自身をもっと強く持つ必要があると考えて、生徒集会でも指導した。

- ・自治会活動と教員の関係はどうか。

⇒教員の三部会と生徒の委員会とで行事を企画運営している。

- ・執行部はどんなことをやっているのか。

⇒校内大会、記念祭を仕切っている。クラブ間の連絡、クラブ予算のとりまとめ、学校説明会での学校紹介などもやっている。生徒の学校紹介は、中学生・保護者には非常に好評である。また、今年の自治会選挙では、天王寺区役所から投票箱も借り受け、投票場を設定して実社会の選挙と同じ形式で行った。今年是对立候補も出た。

- ・対立候補が増えたのは活発でよいことだ。投票率はどうだったか。

⇒8割をめざしたが、7割だった。

- ・自治会執行部にアンケート結果を分析させてみるのもいいのではないか。質問の問い方次第でもアンケートの評価の数値は変わる。

*教員の労働時間について

- ・週1回のノー残業デー（19時までの退勤）は守られているのか。

⇒ほぼ守られている。

- ・時間外労働の数値は減っているか。

⇒昨年と比べ、少しではあるが減っている。

- ・最近の若い先生はドライな方が多いと聞くが、高津ではどうか。

⇒若い先生は教職経験が少ない分、授業の準備などにかかなり時間をとられているが、どの先生も一生懸命頑張っている。

- ・教員が担うべき仕事と、そうでない仕事を分けるべきである。

- ・外部人材を活用しないと教員の負担は減らないと思うが、それがなかなかうまくいかない。

- ・部活動は教育活動の1つなので、外部人材に任せにくいのでは。

⇒本校では、スクールカウンセラーの積極的な活用に努めている。また、モデル事業として、府立学校10校に部活動の外部指導員を入れている。

*講習・学力等について

- ・講習、補習は増えているか。

⇒講習・補習の時間は増えている。

- ・文理学科だけになってどう変わったか。

⇒今年の1年生からすべて文理学科になり、課題研究の取組みを全員が行うことになる。

- ・2020年の入試改革などに向け、従来の学力を上げるだけではだめで、それ以外の力をどう高めていくか。

⇒今が転換期と捉えており、生徒が多様な体験をできるようなカリキュラムを作成中である。

IV. その他

百周年記念式典の様子をDVDで紹介。

今後の予定 第3回 平成31年3月下旬